

## 令和5年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 幹事会（第1回）

### 会議の概要

- 会議名 令和5年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 幹事会（第1回）
  - 開催日 令和5年7月7日（金曜日）
  - 出席状況 東京都、千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、中野区、豊島区、北区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、国土交通省
  - 議事の要旨
    - \* 国土交通省より、騒音測定結果や部品欠落報告等についての説明
- 

### 【主な意見及び国の回答等】

- ・ 羽田小学校の騒音測定結果について、令和3年度と比較して令和4年度実測値の平均の数値が上昇している。引き続き騒音軽減対策をお願いしたい。  
⇒今後も引き続き、騒音の継続的なモニタリングを実施し、騒音軽減に取り組んでいく。
- ・ 令和3年度比で落下物の合計件数が減っていることに対して、何重にも対策を実施いただいていることに感謝。航空機との関係性は確認できていないが、本区では過去に氷塊落下が発生しており、航空機との関連性や蓋然性が高いのではないかと、といった懸念が払しょくされていない。本区としては部品欠落の問題に対しては意識が高く、引き続き対策を実施いただきたい。また、資料内に昨年度の実績を掲載して頂いているが、経年の比較がわかるような資料をお願いしたい。落下物ゼロに向けて、どのようなKPIを定めているのか。また、令和3年度と令和4年度の部品欠落の件数を比較すると、500グラム以上の件数が増えているが、1キログラム以上の重い部品とはどういったものか。  
⇒部品欠落報告制度を設けた目的は、落下物事案を防ぐことであり、落下物事案ゼロ件を続けていくことが目標である。部品欠落がゼロ件でも、落下物が1件発生したら意味がない。数値目標を示すことは難しいが、引き続き、落下物事案を発生させないための対策強化を続けていく。発生件数の比較について、これまではコロナ禍のため単純比較が難しかったが、今後は資料に示していくことを検討する。1キログラム以上の部品について、最も多いのはタイヤの一部である。その他には、ライトの破片、金属製の部品などがある。タイヤの破片は離陸、着陸時に欠落することが多く、空港敷地内で発見されることが殆どである。
- ・ ホームページ等で様々な情報を公開していることは承知しているが、新飛行経路にお

ける落下物が発生していないことや、2020年度より国による機体チェックのチェック要員を増員したこと等についても積極的な情報発信をお願いしたい。

- ・ 当区では、第二回定例会にて請願が提出された。内容は、国に、羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会の検討内容を住民に知らせるための住民説明会を開催するよう、再度求めるものである。審議の結果、全会一致で採択された。令和4年7月14日に、住民説明会の開催要請について、国土交通大臣宛に港区長、区議会議長連名で要請文を提出しているものの、住民説明会が開催されていないことから、再度開催を求める請願が提出された。また、技術的方策検討会が夏から秋にかけて開催されると聞いており、区民から、区の上空を飛ばなくなるのかどうかといった声があがっている。こうした区民の不安や疑問に答えるべく、教室型の住民説明会の開催を改めてお願いしたい。

⇒然るべきタイミングで、説明の場を設けたい。実施時期、説明内容、方法等について、引き続き検討していく。

- ・ 当区においても、説明会開催の要望を受けている。改めて教室型の説明会の開催をお願いしたい。また、通常の飛行ルートと異なる経路で飛んでいるとの問い合わせがあるが、ゴーア라운드については従前経路、新飛行経路に関係なく、都心上空を飛行する可能性があり、住民の誤解や不安を払拭するためにも、情報提供や表現の工夫をお願いしたい。

⇒説明会については、今後も検討を進めていく。ゴーア라운드に関する情報提供については、より分かりやすい情報提供方法を検討していく。

- ・ 当区においても、固定化回避検討会に関する住民説明会の要望が根強く、引き続き開催に向けて検討をお願いしたい。また、羽田の発着回数がコロナ禍前に戻りつつあるとのことだが、新飛行経路の検討を開始した当初の想定から、現在はどのくらいの割合で、今後、更にどのくらい増える想定か。

⇒説明会については、今後も検討する。復便状況について、コロナ禍前と比較して国内線はほぼ100パーセント、国際線は3月末の2023年夏期スケジュール当初では約70パーセント程度まで回復。復便が進んでいるため、直近はさらに回復している可能性が高い。新飛行経路導入前は、国際線の年間発着容量は約9万回であったが、新飛行経路の導入に伴い、年間12.9万回に拡大した。現在、コロナ禍以前の発着数である年間9万回のペースに達しているものと思われる。今後、年間12.9万回ペースに向けて増えていくこと

が見込まれるが、それ以上増えることはない。

- ・ 安全対策、騒音軽減に向け、引き続き、取組強化をお願いしたい。固定化回避検討会について、結論に向けた早急な取組をお願いしたい。また、当区では新飛行ルートに関する区民向けアンケートの実施準備を行っている。実施時期は夏頃、対象は高校生以上の区民である。地域性などの個別事情を踏まえた区民意見を把握したい。結果について早急に取り纏め、国へ提出する。また、アンケート結果に応じた対応を求めていく予定。

⇒安全対策、騒音軽減について、不断の取組として実施していく。固定化回避検討会についても、最善の努力を払って対応していく。アンケートの結果を踏まえた要望については、内容を吟味した上で対策に取り組んでいく。

以上